



平和と独立を求める民衆の「決意」を伝える
神道ジャーナリズム誌

本号の内容

【主張】汚染水海洋放出に反対する 戦後神社界は原発、放射能の問題とどう向き合ってきたか（木川智）：1 / 【連載】児玉誉士夫を君知るや（4）（木川智）：4 / 花瑛塾令和三年三月、四月活動報告：6 / 【連載】記録沖縄戦⑬（沖縄戦史研究会「棒兵隊」）：7 / 2021年夏 那覇市議選のすすめ（上） 畑井モト子さん（仲村之菊）：15 / 【連載】葦津珍彦と神道ジャーナリズム14（鎌倉佐助）：18 / 編集後記：20

1部 1000円

戦後神社界は原発、放射能の問題とどう向き合ってきたか

汚染水海洋放出に反対する

神苑の決意 木川智

【主張】 政府は先月十三日、関係閣僚会議において、東京電力福島第一原子力発電所から発生した汚染水について、海洋放出する方針を決定した。海洋放出は二年後を目途に実施されるといわれている。

政府による汚染水の海洋放出の方針決定に強く抗議し、方針の撤回と汚染水の陸上保管を求める

汚染水はこれまで、福島第一原発構内に設置されたタンクに貯蔵され、陸上保管が続けられてきた。

しかし東電の発表によると、福島第一原発では、今年一月の時点で一日あたり一四〇立方メートル、ドラム缶七〇〇個分の汚染水が発生しており、今こ

の瞬間も汚染水は新たに発生しているのである。そのため貯蔵タンクは福島第一原発構内に次々に増設されているが、スペースの関係上、まもなく陸上保管は限界を迎えるといわれている。

そこで考えられたのが汚染水の海洋放出である。汚染水は、地下水や冷却水が事故によって形成された核燃料デブリと触れることで発生するものであり、当然、様々な放射性物質を含んでいる。そのため、そのままでは海洋放出できないので、汚染水をALPS（アルプス）といわれる施設で処理し、トリチウム以外の放射性物質の濃度を基準値以下まで

低下させ、さらにトリチウムを国の基準（六万ベクレル／リットル）の四分の一（一五〇〇ベクレル／リットル）まで希釈し、海洋放出するというのである。

海洋放出の問題点

しかし、その実態は問題だらけである。

汚染水をALPSで処理し、トリチウム以外の放射性物質の濃度を基準値以下まで低下させるといいますが、実際にはALPS処理済の汚染水にトリチウム